

沿線住民と共存した落ち葉清掃の工夫

穂積 秀夫

関東地方整備局 相武国道事務所 管理第二課 (〒192-0045 東京都八王子市大和田町4-3-13)

当事務所管理の国道20号では、毎年10～12月にかけて高樹齢で巨木化が進んだケヤキ、イチョウの落ち葉による沿道住民の苦情が殺到していた。

対策として、定期の道路清掃を見直し、落ち葉区間の中でも密の植樹区間とそれ以外区間について、コストを考慮し強弱を付けて道路清掃を実施するとともに、密の植樹区間では、住民の目に見える作業として、夜間から昼間清掃へ時間帯の変更といった実施内容への工夫を凝らした。

その結果、地域住民の苦情を減らし、コスト縮減を実現するといった効果を得ることができた。

〔樹木概要〕 ・幹周2m ・樹高22m ・樹木間隔7～10m ・1,471本

キーワード 道路清掃、沿道住民、落ち葉苦情、樹木剪定

1. はじめに

当事務所の日野出張所管内では、毎年10月～12月中旬にかけて、「調布市のケヤキ」、「八王子市のイチョウ」の落ち葉による沿道住民の苦情が殺到する。こうした苦情に対して何らかの対策を講じる必要があることから、道路清掃計画において施工時期・時間を考慮し、区間毎に強弱をつけた対応を行った。

2. 緑地管理の現状

調布市のケヤキ（写真-1）については、東京オリンピック開催前に植樹されたものであり、植栽区間5.0kmに710本存在する。このケヤキにおいては、3年に1回の周期で強剪定（図-1）を実施しているところであり、2008年度は279本、2009年度は170本実施した。



写真-1 調布市のケヤキ

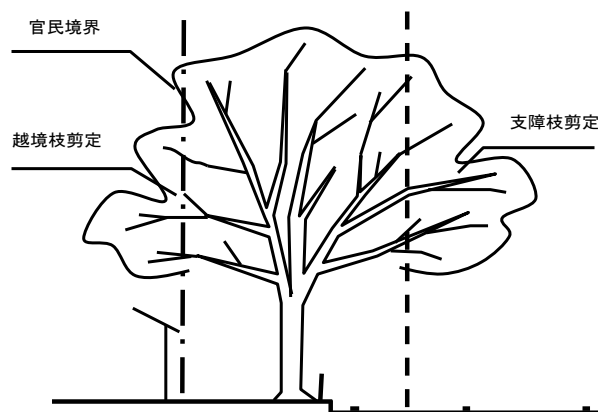


図-1 ケヤキ強剪定

八王子市のイチョウ（写真-2）については、1929年宮内庁において、大正天皇埋葬の御陵整備と共に植樹されたものであり、植栽区間4.0kmに761本存在する。



写真-2 八王子市のイチョウ

このイチョウについては、八王子市の天然記念物に指定されていることもあり、2006年までは未剪定による管理を行っていた。

しかし、沿道住民からの要望が多数寄せられたことを踏まえ、2007年度に「八王子イチョウ並木管理検討委員会」（学識者、自治会、自治体、所轄署により構成）を設立し、景観に配慮した剪定手法としてデザイン剪定を確立した。これにより、2008年度は128本、2009年度は237本の剪定（図-2）を実施した。

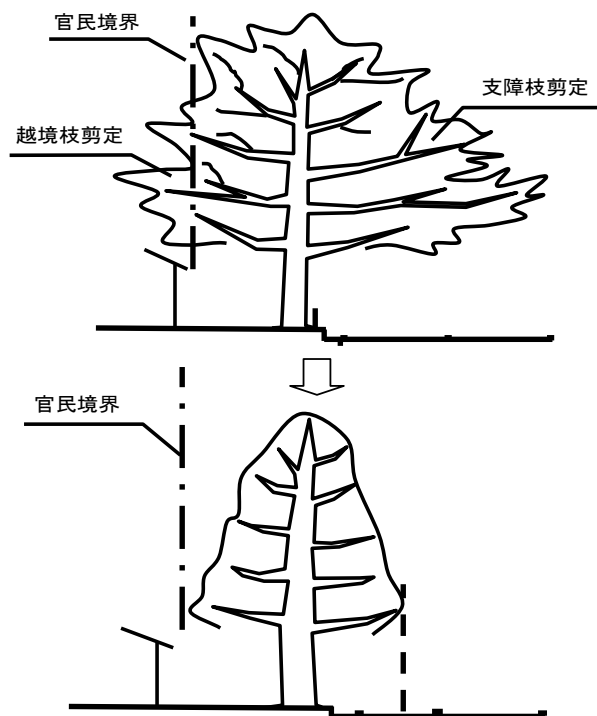


図-2 イチョウデザイン剪定

3. 落ち葉に関する苦情

2008年度10月下旬から1月末に受付けた苦情について、できるだけ沿道住民と直接対面し意見を伺う（147件／260件）ことによって、住民の苦情に起因する要素を聞き出し、大きく2つに分類した。

(1) 街路樹未剪定による苦情

民地へ越境した樹木枝より落葉し、家屋の雨どい詰まりを発生させるなど、住民の生活財産に悪影響を及ぼすことが原因で寄せられたと推察される。

（写真-3）

(2) 落ち葉清掃への労力的苦情

民地内及び商業施設内への落ち葉の侵入、また、住居前歩道に溜まった落ち葉の清掃を日々続けることへの苦痛が原因で寄せられたと推察される。

（写真4,5,6）

4. 清掃計画、清掃労力の軽減手法の現状

2004年度より、沿道住民の道路清掃協力への金銭的な負担軽減のため、道路清掃工事にて「落ち葉袋」を植樹沿道住民に配付、落ち葉の回収を行っていたところである。



写真-3 越境状況



写真-4 落ち葉状況①



写真-5 落ち葉状況②



写真-6 沿道住民清掃状況

また、2008年度より落ち葉時期の清掃回数を増やし、10月中旬より週2回、交通量の減少する夜間に道路清掃（歩道の人力掃き出し含む）を実施した。

しかし、清掃後天候によっては、大量の落ち葉が舞い落ちる状況となり、住民の目に留まる朝方には、清掃の効果が見られない状況になっていた。（写真-7）



写真-7 2008年度 道路清掃後の経過状況

5. 2009年度実施内容

(1) 目に見える作業

2009年度は、これまで夜間を中心に行ってきた道路清掃（道路清掃車の作業と人力による掃き出し作業）を「目に見える」作業を念頭に置き、調布市のケヤキ、八王子市のイチョウ区間については、落葉期の間一部区間を昼間作業に切り替えることとした。（写真-8）

この際に、懸案となったのが、道路使用許可を発行する所轄警察署の協力であり、特に対策を求められた事項については、交通渋滞対策、歩道利用者への安全対策、沿道住民への周知方法であった。

交通渋滞対策は、清掃作業の起点を日々見直すことにより、渋滞発生箇所を固定させないよう対策を講じた。

歩道利用者、沿道住民への対策は、周知ビラ及び看板による対策を講じることで、理解を得ることができた。



【夜間時清掃作業】



【昼間時清掃作業】

写真-8 道路清掃状況

(2) 作業内容周知

沿道住民への周知として、作業日時を把握出来るよう清掃実施案内看板を沿道に設置(図-3)したほか、道路清掃作業の予定周知ビラ(図-4)を沿道住民宅へ投函した。近隣で行われたイベント時には、参加者へ道路管理施策のPRを実施した。(図-5)

落 ち 葉 清 掃 の ご 案 内(案)			
11/〇より落ち葉清掃を開始します。落ち葉状況を判断しながら回数を増減し、清掃してまいります。			
開始予定日	歩道清掃	車道清掃	
落ち葉清掃開始 11/〇 ~	週1回(昼間) 週1回(夜間)	週1回(夜間)	
最盛期前 11/〇(日) ~ 〇(月)	週3回(昼間) 週2回(夜間)	週2回(夜間)	
最盛期 11/〇(日) ~ 〇(月)	日曜除く毎日(昼間) 週3回(夜間)	週3回(夜間)	
最盛期後 12/〇(日) ~	週3回(昼間) 週2回(夜間)	週2回(夜間)	

○予定ですので、落葉の状況により日程が変わります。
○特定の場所の清掃時間が毎回早くならないように、清掃スタート箇所を変えながら実施しています。
○皆様のご協力をお願いします。

国土交通省 日野出張所 TEL 042-582-0408
〇〇〇〇〇〇〇株式会社 TEL △△△-△△△-△△△

歩道清掃は 12月 1日	次回は 12月 3日
------------------------	----------------------

図-3 作業内容周知看板

地元住民の皆様へ

落 ち 葉 収 集 に つ い て の お 知 ら せ

秋季における街路樹の落ち葉収集にご協力いただき誠に有難うございます。収集して頂きました袋を、下記日程にて収集致しますので、ご協力お願い致します。

記

期 間：平成21年10月26日から平成21年12月25日まで

※ 落ち葉の状況により期間の延長もあります。

収 集 日：裏面 収集予定日参照

時 間：裏面 収集予定日の朝9時までに出してください。

(昼間道路清掃作業時に回収させていただきます)

置く場所：街路樹の横等

(歩行者の通行のじゃまにならない所で、車両より見える箇所)

相 武 国 道 事 務 所
日 野 出 張 所
TEL 042-582-0408

図-4 予定周知ビラ



図-5 PR看板①



図-5 PR看板②

(3) 清掃作業

出張所管内の全区間における定期的な道路清掃の年間回数を圧縮し、落ち葉区間である調布市のケヤキ、八王子市のイチョウを落ち葉期に週3回、2班体制で実施した。(図-6)

更に、落ち葉発生区間においては、沿道住居地区・商業地区の落葉時期がばらついているため、樹木の落葉時期に合わせた清掃時期・区間を設定し、きめ細かく集中的に落ち葉清掃を実施できるようにした。

以上の取り組みにより、住民からの落ち葉に対する意見を大幅に減少(表-1)させることに成功した。

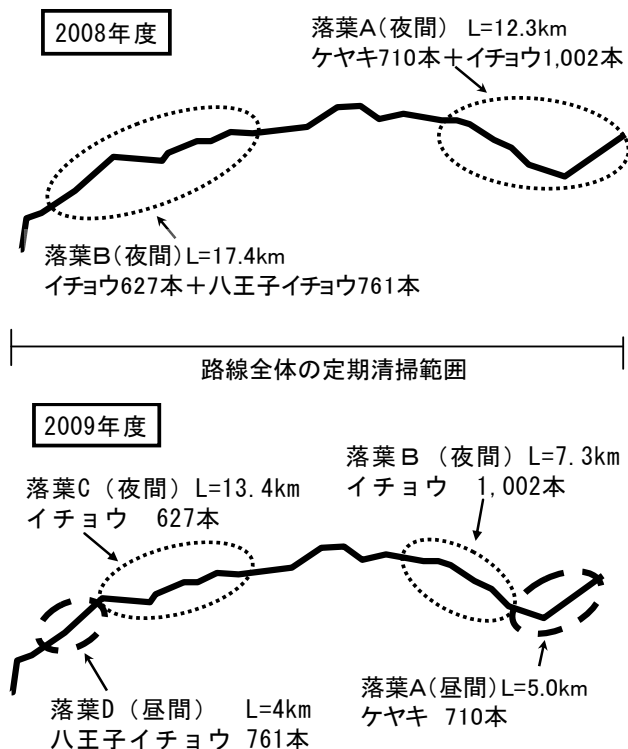


図-6 落ち葉区間比較

表-1 苦情件数比較

	調布のケヤキ		八王子のイチョウ	
	2008年度	2009年度	2008年度	2009年度
落ち葉による苦情	103件	48件	32件	5件
銀杏の実に対する苦情			52件	23件
剪定要望	49件	15件	24件	15件
計	152件	63件	108件	43件

特に、昼間清掃を行うことにより、沿道住民の目に落ち葉清掃を行っていることが具体的に見えることで一定の評価を得ることができた。

コストについては、これまで路線全体の定期清掃実施時に行っていた夜間の落ち葉区間の清掃を取り止めたこと、及び落ち葉清掃区間では、一部区間を夜間から昼間に変更することにより清掃延長で約30%、コストで約700万円の圧縮が実現できた。

(4) 剪定作業との連携

従前は、冬期に剪定を行っていたところであるが、2009年度はケヤキの強剪定及びイチョウのデザイン剪定を落葉期に行うことを試験的に実施した。

剪定時期を切り替えることにより、沿道住民の清掃作業の負担軽減に寄与する結果となった。

ただし、基本冬眠期と言われる時期である冬期ではなく、落葉期に剪定作業を行ったことから樹木の衰弱、枯死が発生しないか観察していく必要がある。

(5) 沿道住民との対話

地域の意見交換会開催時に、道路維持管理に関するアンケートを実施した。この結果からも2009年度の実施内容の効果が確認された。

- みなさまの清掃の負担に変化はありましたか。
 - － 半数以上の方が「変化した」と回答。
- ギンナン臭などの影響に変化はありましたか。
 - － 2/3以上の方が「変化した」と回答。
- 清掃頻度を増やしましたが、効果はありましたか。
 - － 「大いにあった」「少しあった」をあわせるとほとんどの方が効果があったと回答。
- 昼間に清掃を行いました、効果はありましたか。
 - － 「大いにあった」「少しあった」をあわせると全員が効果があったと回答。
- 来年度以降の清掃作業について。
 - － 「他の予算を削減してでも今年の頻度を維持すべき」「清掃よりも他の事業に予算を振り向けるべき」と意見が2分された。

6. まとめと今後の課題

2009年度については、コスト、実施内容の工夫(区間・時期・時間)により沿道住民への負担を低減させ、その結果、苦情を低減させたことは他事務所の参考となると考えられる。

今後の課題としては、道路管理費削減によるサービスレベルの低下が懸念される他、現在ボランティア作業に協力いただいている沿道住民の方の高齢化や自宅前位は自分で清掃するといった方が減るなど、引き続き協力をお願いしにくい状況となりつつある。

よって、現在道路管理行政が抱えている状況を沿道住民に理解いただき、自治体と連携し沿道住民だけではなく、町会単位などで清掃活動に理解を求め、ボランティアサポートプログラムに協力いただくなど、多数の参加を呼びかけることが重要となる。